



# ほうき 議会だより

第**56**号  
2019年  
1月25日



## 溝口小学校 学習発表会

### おもな内容

- 新議長挨拶…………… 2ページ
- 全員協議会、請願・陳情…………… 3ページ
- 補正予算…………… 4～5ページ
- 総務経済常任委員会行政調査報告…………… 6ページ
- 教育民生常任委員会行政調査報告…………… 7ページ
- 一般質問…………… 8～13ページ
- 議会の虫めがね、編集後記…………… 14ページ

### 人の動き

	平成31年1月1日現在	前年同月比
人口	<b>10,955</b> 人	△152人
(男)	<b>5,238</b> 人	△49人
(女)	<b>5,717</b> 人	△103人
世帯数	<b>3,826</b> 世帯	2世帯

# 新議長、副議長決まる

伯耆町議会では、12月13日（木）12月定例会最終日、篠原天議長の辞職に伴い、議長・副議長選挙を行い、副議長の幸本元議員が新議長に、永井欣也議員が副議長にそれぞれ選出されました。また、議会選出の監査委員に杉原良仁議員が選任されました。

## 議長あいさつ



議長  
幸本 元

去る12月13日の12月定例会最終日におきまして、議長に選出されました。

今後の議会運営につきましても、常に町民の立場に立ち、福祉の向上と地域社会の活力ある発展を目指すために、使命と責任を果たさなければならぬと考えております。

そのためには、開かれた議会を目指し、「町民と語る会」等からいただきました皆様の貴重なご意見・ご要望を町政に反映させていくよう、議会運営に努めてまいります。

町民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。ご挨拶と致します。

## 副議長



副議長  
永井 欣也

このたび、副議長に選出されました。

議長の補佐役として、議会基本条例、議員政治倫理条例の精神を体し、身を律し、自己研鑽に励み、副議長の職務遂行と議会の公平で円滑な運営に微力ながら力を尽くしてまいります。

町民の皆様方には、議会へのご理解と叱咤激励町政に対するご支援とご協力をお願い申し上げます。

## 監査委員（議会選出）



監査委員  
杉原 良仁

みんなが知りたい

# 全員協議会

平成30年12月定例会関連の全員協議会は、12月4日に開催。議案以外の主な協議事項。

## ●台風24号の被災状況報告

9月30日避難準備情報、避難勧告、避難指示が発令された。6ヶ所の避難所に99世帯、204人が避難。24件の被害発生。

### 被害報告

- 田のあぜ崩落 8件
- 頭首工(取水口)の破損 4件
- 林道への土砂流出 2件 (産業課関係)
- 町道路肩崩落等 8件
- 普通河川護岸流出 2件 (地域整備課関係)

## ●溝口分庁舎改修事業

平成31年度から着手する溝口分庁舎改修事業に関して、簡易調査結果報告、工事の施工方針を協議。

### 調査結果

- ①分庁舎外壁(タイル)
  - 今回の調査では、2か所ともコンクリート躯体と下地調整剤の界面剥離が認められた。採用工法については、費用、周辺状況を考慮し、「不良箇所のみ部分ピンニング」とする。
- ②ワーキングコミュニティスペース関連
  - 5階空調追加、1階シャッター・誘導灯設置。

## みなさんからの請願・陳情は次のおりとなりました

議員名 (議席番号順)	長谷川 満	森下 克彦	杉本 大介	乾 裕	永井 欣也	杉原 良仁	一橋 信介	渡部 勇	勝部 俊徳	細田 栄	大森 英一	幅田 千富美	幸本 元	結果
件名														
[安倍内閣の退陣を求める世界平和7人委員会のアピール]を支持する意見書提出に関する陳情	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	賛成2人不採択
臓器移植の環境整備を求める意見書の採択を求める陳情書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	賛成13人趣旨採択
教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元をはかるための、2019年度政府予算に係る意見書採択の要請について	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	○	○	×	賛成4人不採択
沖縄県による「辺野古沿岸埋め立て承認撤回」を尊重するよう日本政府に求める意見書提出についての陳情	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	継続審査

採択は、篠原天議長を除く13人で行います。

# 平成30年度 伯耆町一般会計補正予算 (第3号)

## 主な事業

### 歳入

ブロック塀、冷房設備対応  
臨時特例交付金



溝中校庭フェンス

住宅団地売払収入



清水の里団地

補正前	87億9,200万円
補正額	2,700万円
補正後	88億1,900万円

### 歳出

農業用施設補助災害復旧事業



五輪農道(大倉)

有害鳥獣駆除事業



イノシシ捕獲

産休等代替職員事業



保育風景

## 主な議案の採決結果 (○賛成 ×反対)

議員名 (議席番号順)	長谷川 満	森下 克彦	杉本 大介	乾 裕	永井 欣也	杉原 良仁	一橋 信介	渡部 勇	勝部 俊徳	細田 栄	大森 英一	幅田 千富美	幸本 元
伯耆町職員の給与に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工事請負契約の変更契約について(平成30年度伯耆町ケーブルテレビネットワーク光化促進事業整備工事(幹線))	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工事請負契約の変更契約について(平成30年度伯耆町ケーブルテレビネットワーク光化促進事業整備工事(引込))	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
伯耆町公の施設に係る指定管理者の指定について(ふれあい交流ターミナル)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
伯耆町公の施設に係る指定管理者の指定について(ささふく水辺公園)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成30年度伯耆町一般会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成30年度伯耆町水道事業会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成30年度伯耆町公共下水道事業特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

議案の議決は、篠原天議長を除く13人で行います。

総務経済常任委員会行政調査報告

移住・定住推進事業に取り組んでいる自治体を調査

調査先 福岡県大牟田市、福岡県那珂川市
行政調査委員 大森 英一、 森下 克彦、 渡部 勇、 一橋 信介
杉原 良仁、 杉本 大介

福岡県大牟田市
おおむた

女子力を活かした移住・定住推進事業

調査の概要

大牟田市は、エネルギー政策の変換による炭鉱の閉山に伴い人口が激減し、過疎化が進む状況の中、人口減少化への対応が課題。

近年特に若年女性の転出が多くなっており、市内在住の女性には住み続けてもらうこと。また、市外からの移住により新たに住んでもらう施策を検討。

平成29年6月、市の魅力を広くPRし、移住・定住を促進するために、「おおむた移住・定住サポート会議」を設立。会議メンバーは、経営者、農業者、起業家、一級建築士、子

育てに関する活動を行っている者、移住ママなど11名で、全て女性で構成されており、子育て、暮らしに大きな役割を果たす女子力を活用し、女性目線での事業展開中で、平成29年度は、次の施策に取り組んだ。

- ①お試し居住（借上げマンション）の企画・実施。
②おおむた認定こども園・保育園見学ツアーの企画・実施。
③移住コンシエルジュの育成。
④女性をターゲットとした移住促進のためのパンフレット・ポスターの作成などの事業を実施。

福岡県那珂川市
なかがわ

中山間地における移住・定住推進事業

調査の概要

市中心部から南方約9kmの「南畑地区」は、市全体の人口増加傾向とは対照的に、年々人

口減少にあり現在は1,791人、小学校児童数76人。

同地域は農林業が中心産業であったが、高度経済成長期以後

の農林業経営不振により、就業先を地域外へ求めてこの地を離れるケースが増加、高齢化対策、後継者不足の解消、空き家対策が課題。

平成24年に、地域存立の危機感から、地域の6行政区の区長が「南畑地域活性化検討会」を立ち上げ、地域の活性化について検討を開始し、現在、南畑地区移住促進事業に取り組み中で、その事業の概要は次のとおり。

- ①増加する空き家を移住者用に活用するため、空き家の情報収集・分析・データベース化を図り専用ホームページ等で情報発信。
②移住希望者と物件をマッチングさせるコーディネートとして、移住及び不動産に関する専門知識を持つ人材配置。
③地域内外の方の意見交換の場として「移住交流促進センター」（地域おこし協力隊が駐在）設置。
④移住希望者と地域住民の交流を目的に、餅つき、しめ縄作り等のイベント開催。
⑤地域の魅力を発信するために、福岡市内でトークイベント開催。

事業成果

平成28年度2世帯7人転入。
平成29年度3世帯11人転入。
平成30年度4世帯11人転入。
(子育て世代が多い)



移住者用に活用された元空き家物件(南畑地区)

調査のまとめ

人口減少の社会現象下、地域活性化事業を行なっているもので、町行政による支援策検討の参考となる。

教育民生常任委員会行政調査報告

先進的なICT教育及び特色ある学校教育の取組を調査

調査先 滋賀県草津市、京都府南丹市、兵庫県篠山市
行政調査委員 乾 裕、 幅田 千富美、 幸本 元、 細田 栄
勝部 俊徳、 永井 欣也、 長谷川 満

滋賀県草津市
教育のICT化

調査の概要

平成21年2校のモデル校へ電子黒板を整備。以降段階的に校内LAN、デジタル教材、タブレットPC等導入。平成29年1月より人型ロボット「Pepper」を利用した取組を開始。平成30年以降は電子黒板、PCの更新を計画。

平成29年草津市学校業務改善プランを策定。その背景は、社会情勢の変化に伴い、学校が抱える課題は複雑化・多様化。学校の業務は増加。教職員の業務も増加し、子どもと向き合う時間や授業



草津市議会を訪問

の準備・教材研究などの時間確保が困難に。学校単位での業務改善だけでは解決は不可能。教育委員会主体の総合的な学校改善プランが必要となる。

調査のまとめ

ICTを活用したアナログとデジタルの学習スタイルをミックスし、主体的な学び、ともに活動し話し合う協同的な学び、問題解決的な学びを目指す「草津型アクティブラーニング」により、先進的な学習を実現している。

京都府南丹市
美山町山村留学制度

調査の概要

美山町知井地域での山村留学の始まりは、平成10年4月留学制度を導入し5名を受け入れたところから。複式学級の解消が目的だったが小学校の再編により今では地域の活性化の重要な役割へと転じた。

都市部の子どもが親元から1年間離れ、豊かな自然の中で伸び伸びと遊び、学ぶことを趣旨とする京都府唯一の山村留学事業であり、20年の歩みの中で延べ150名が巣立っている。



センター開所以来の退(卒)所児童の名札

調査のまとめ

留学生は、美山山村留学センター「四季の里」を生活拠点とし美山小学校へ通学。週1回地域の里親宅へホームステイする方式。児童の中には美山町へ嫁いで来られたり指導員として活躍されるなど地域活性化の役割の一翼を担っている。

兵庫県篠山市
動画学習による「反転授業」

調査の概要

「反転授業」の実践におけるアクティブラーニング。篠山市立丹南中学校(生徒数308名、教員数36名)では、主体的・対話的で深い学びができる生徒の育成を目指し、研究テーマを「教えてもらう学びから、自ら求め探っていく学びへの転換」教え込む授業から、気づかせ、支援する授業への創造」と設定。予習動画の作製。教師自ら作成に取り組み試行

調査のまとめ

動画を自宅で観ることで授業内容をあらかじめ理解することができる。この前提で授業に入るため、講義の時間短縮ができ、「教え合い」「演習」「実習」などの時間が確保でき、教え合いの成果として中位層の成績が伸びた。また、学習の振り返りも余裕をもってできるようになった。教師の力量もアップした。



生徒同士で教え合う授業風景

# 一般質問 町政を問う！

一般質問とは、議員が町長等（執行機関）に対し、町の行政全般について執行状況や将来の方針等を問うものです。

5人の議員が一般質問を行いました。

## 基本ルール

- ・質問要旨は事前に通告
- ・持ち時間は1人60分
- ・町行政に関係があるもの

伯耆町では1人60分の制限時間内であれば、質問の回数に制限はありません。臨場感ある本会議場での傍聴をお待ちしています。

平成30年12月7日 実施

ページ	主な質問事項	質問議員
9	1.デマンドバス等の安全運行対策は 2.災害時の新たな備えとして、乳児用液体ミルクの導入を求める ほか	乾 裕 
10	1.幼児教育、保育所の無償化 2.農業経営基盤強化促進法に基づく、本町の基本構想 ほか	細田 栄 
11	1.産業廃棄物処分予定場へのアスベスト含有物搬入対策 2.公共工事建設発生土処分場の開設	森下 克彦 
12	1.高すぎる国保税「協会健保」並みに引き下げを求める（均等割、平等割の廃止提案） 2.母子、乳幼児等が利用する安心のトイレ ほか	幅田千富美 
13	1.所有者不明の土地を防災公園などへ活用を 2.「夜間保育」や「質の高い保育」への考え方は ほか	勝部 俊徳 

スマートフォンなど携帯電話で一般質問の映像が流れるyoutubeの二次元バーコードはこちらです。



# 町政を問う

## デマンドバス等の安全運行対策は

### 分庁窓口課長 新たなバス導入の際には 歩行者感知装置等を検討



乾 裕

# 乳児用液体ミルクの導入を求める

## 町長 備蓄としての特性は確実にある

**乾** 運転手の人員確保、始発前のアルコールチェックは遵守されているか。  
**分庁窓口課長** 人員は確保されている。点呼の際にアルコール値は呼吸確認している。

**乾** 健康診断の実施状況。  
**分庁窓口課長** 毎年実施。病歴も問題ない。

**乾** 運転手が気を失うなどした時の対応は。

**分庁窓口課長** 日々の健康確認を確実にしている。バス等の「緊急通報装置」は整備されていないが今後新たなバス導入の際には「歩行者感知装置」や「車向逸脱感知装置」の導入を検討したい。「ドライバー異常時対応システム」は観光バス専用装置であり、本町の路線バスやマイクロバスには対応できない。

**乾** 乳児用液体ミルクは、地震等によりライフラインが断絶した場合でも、水、燃料等を使わずに授乳することができると、国内の流通体制が整い利用者への周知等ができれば、災害時の備えとして有効と考える。

**町長** 平成31年春から販売されることは承知しているが実際に見聞し、利用者の動向も注視している。備蓄としての製品特性は確実にあると評価している。



デマンドバス



日野川の増水の状況 (国土交通省河川カメラ)

**乾** マイタイムラインの導入を図るべきと考える。9月議会で「防災座談会」を提案させて頂いた。一つはハザードマップの地域住民の学習。次に取り組むべき課題として、各人の防災行動を時系列でまとめたものを自分自身で作製するという作業が必要と思う。

**町長** 防災座談会は、区長協議会で希望された集

落で実施し、ハザードマップの説明等が重要であり最初の第一点となる。今年の災害時の日野川流域における避難の状況を見ると消防と各区長との連携により早目の避難が出来た。これは普段からの訓練とコミュニケーションによるものが大きかった。自助も大事だが共助・公助の連携も含め今後も提案を含め取り組んでいく。

# 町政を問う

## 幼児教育・保育所の無償化（3～5歳）の対応は

### 町長 国の方針を是とし本町も実施



こしき保育所

**細田** 平成31年10月から実施予定の消費税増加分の使い道を変更して行うものであるが、この無償化に必要な財源の一部を地方に求める動きがあり、全国市長会は国の全額負担を求めている。先に行われた全国町村会の対応はどうかであったか。



細田 栄

## 農業経営基盤強化基本構想は

### 町長 新規就農者の規模や経営モデルとして活用

**町長** 幼児教育、保育所の無償化については是としているが、今後の地方負担額の決定については充分協議するよう求めている。

**細田** 本町の無償化になる金額は1年間でいくらになるか。

**町長** 保育料として入らなくなる金額は約5,000万円弱と見込んでいます。

**細田** 消費税増額に伴う、本町に交付される地方消費税の増額分はいくらになるか。

**町長** 約5,600万円と見込んでいます。

**細田** 本町の農業経営基盤強化促進法に基づく基本構想が平成25年を基準年、平成35年を目標年次として、年間労働1,800時間、所得1人当たり350万円を目標に経営モデルが設定されている。

経営類型ごとに作目・面積・粗収益・所得・設備、機械などの設備投資額が示されている。

このほかにも農地の利用集積、作業受委託、労働力の確保など専門的ではあるが、具体的に解りやすい計画になっている。この構想をどのように活用しているか。又、本町の農業施策にどのように反映されているか。



農業法人の大型コンバイン

**産業課長** 新規就農者の相談や担い手農家認定審査の経営モデルにしている。その他集落営農や法人化のためにも活用している。

や集団化、法人化等により高付加価値や農地の維持増進を図られるよう支援していきたい。

**町長** 各農家の後継者不足が顕著になっており、今後の地域農業を担っていくためには、所得の安定と向上を目指さなければならぬ。

「このほか農業委員会の運営と平成31年度予算編成について質問しました。」

そのため、規模の拡大

# 町政を問う

## 南部町アスベスト含有産業廃棄物搬入に反対を

### 町長 締結済の協定書・覚書に基づいて対応



森下 克彦

# 公共工事発生土処分場 8万<sup>2</sup>m<sup>2</sup>を確保する必要性は

## 町長

# 県の要請に応じ残土搬入し、 防災広場として活用

**森下** 9月議会に続き、南部町鶴田地区への産業廃棄物搬入開始の動きについて問う。長年営業実態のない事業者が産業廃棄物を搬入しようとしているが、その後の事業者の動きは。

**地域整備課長** 11月に、現状での水質検査を行なった。

**森下** 搬入許可権者の県は、事業者に搬入開始に際し、地元説明を行うことを指導しているが、当町関係者への説明は成されたか。

**地域整備課長** 12月南部町で実施予定。南部町の動きをみて対応したい。

**森下** アスベストは人体に悪影響を与える。産業廃棄物搬入に反対すべきではないか。

**町長** 法律の範囲内で対応していく。

**森下** 平成5年の産業廃棄物処分場開設の際に締結した協定書には、搬入品目にアスベスト含有物は記載されていない。協定にない品目であり搬入は認められないのでは。

**町長** 法律の改正により、アスベスト名を明記することになったもので、許可済み品目は、非飛散性アスベストが含まれた廃棄物であると県から聞いており、協定にない品目とは考えていない。

### 公共工事発生土処分場

**森下** 造成地は、平場面積で約8万2千<sup>2</sup>m<sup>2</sup>、搬入土量は107万<sup>2</sup>m<sup>2</sup>の農耕地もある谷底状の土地であるが、計画地に占める農地面積、農業従事世帯数及び買収対象地権者数は。

県による公共工事発生土搬入について、近隣町で地元の同意が得られなかつたとの情報がある。地元説明は行われたか、また同意は得られたのか。

**地域整備課長** 農地面積は約3万2千<sup>2</sup>m<sup>2</sup>、農地保有者数で13名、地権者は19名の予定。地元説明を行っている。営農管理に苦労されている農地でもあり、造成計画に好意的で、事業実施の要望も受けている。また、土地改

良区、日野川漁協等への説明も行っている。

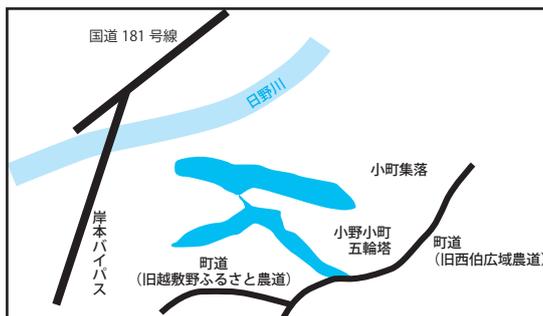
**森下** 新たに搬入された土による土砂崩れ、産業廃棄物が含まれるおそれはないか。搬入土砂に対する監視・検査体制が必要ではないか。

**地域整備課長** 搬入土は、伝票により内容を把握し、監視員を設け、土質検査も行い、抜き打ち検査もできる体制となっている。

**森下** 造成後は、災害時の避難場所、災害ゴミの一時的仮置場等の防災広場として利用される予定であるが、防災計画上の必要性を確認したい。

**町長** 今後予定の米子道4車線化、国道181号線アンダーパス部改良、県道日光・白水線改良の公共工事建設残土が発生する。県の要請に応じて

残土処分場を確保するが、有効利用の観点から種々検討する中で、防災広場への利用とした。



公共工事発生土搬入予定地

# 町政を問う

## 高すぎる国保 均等割・平等割・廃止して「協会健保」並みに引き下げを

### 町長 医療費全体の適正化を図ることが課題

モデルケースの国保税 (2018年度)

単位：円

世帯例	年間所得	100万円	200万円	300万円
①世帯所得現役40代夫婦と未成年の子ども2人		155,300	286,100	401,600
②65才以上74才以下で年金生活高齢者夫婦のみ		105,200	216,600	289,500
③65才以上74才以下で年金生活者独居世帯		116,400	189,300	262,200

**幅田** 高すぎる国保税に悲鳴が上がっているが、モデル世帯の国保税はいくらか。国は1980年代から公費負担削減を開始、そのため、国保税は引き上げられた。発足当



幅田千富美

# 公共施設に母と子、乳幼児が 安心のトイレ改善を

教育長

屋外トイレは全体計画で改善を図る

安心のトイレ改善を

初、農林水産業、自営業中心から現在では、非正規、年金生活者等無職の加入者が8割を占め、貧困化が進行しているの一番高い医療保険となっている。国保は国民皆保険を支える最後のセーフティーネットで国と地方の重要な政治課題。全国知事会は、国保都道府県化と負担の公平化のため、公費一兆円の投入を求めた。

高すぎる国保税引き下げのため「四つの提案」に対する考えを問う。

- ①協会けんぽ並みに引き下げる。
- ②国が減免制度をつくり、困った人を助ける制度に。
- ③無慈悲な保険証取上げや強権的差押え中止。
- ④「国保都道府県化」を利用した更なる引上げは

許さない。この財源は、巨額な利益を上げている大企業、富裕層に応分の負担を求める。

**町長** 医療費全体の給付と負担の関係がある。県一本化は始まったばかりで医療費削減、健康への取り組み等、なるべく負担が上がらないよう取り組むとしか言えない。提案の財源は基礎自治体の権限外。

### 公共施設のトイレ

**幅田** 広場や公園、公共施設に、母と子、乳幼児が安心して利用できるよう、トイレの改善求める声が上がっている。特に改修されたちびっ子広場は人気で町内外からの利用が大幅に増えている。改善が必要ではないか。



ちびっ子広場

**教育長** 海洋センター内は改修しているが、屋外トイレは全体計画で改善を図る。

### お試しサテライト オフィス受入れ状況

**幅田** 地方進出企業に分行舎6階を貸出し、IT関連企業で将来5人程度の採用見込みとの説明だったが、現況と今後の見通しは。

**企画課長** 3月に㈱イーベース・ソリューションズが入居、1名が在駐、さらに募集中だが人手不足で応募がなく、本社から1名派遣。ゆうあいパルレストランでカフェ出店中。賃貸料5万5千円。

# 町政を問う

## 所有者不明の土地を防災公園などへの活用を！

町長

### 冬期の雪処理の場所など、「地域福利増進事業」の可能性もある

**勝部** 本町の「所有者不明土地」の把握状況は。 **住民課長** 146筆ある。所有者は、24件。

**勝部** 平成30年1月1日現在の土地の総評価筆数は。 **住民課長** 約11万筆である。

**勝部** 相続登記放置の土地や所有者不明土地が、行政にもたらずリスクへの認識は。 **町長** 土地は、適正に管理されるといふ前提で制度設計がなされている。所有者不明の土地が増大すると公共事業がうまくいかなくなることもある。

**勝部** 防災公園等への活用の考えは。 **町長** 冬期の雪処理の場所などへの可能性もある。



勝部 俊徳



土地は適正に管理して大地の恵みを！

**勝部** 幼児教育の無償化についての認識は。 **町長** 子育て支援の観点から社会的意義も大きいので進めてゆくべきものと考えます。

**勝部** 保育士のキャリアアップ研修を含め研修の現状は。 **福祉・総務各課長** 正規・非正規保育士も研修にはキャリアアップ研修を含めて参加させている。

**勝部** 鳥取県による本町保育所への指導監査は。 **福祉課長** 「苦情処理規定の制定」「避難計画の実効性の確保」等の指摘があった。

**勝部** その改善は、保護者等とも協議するののか。 **福祉課長** 内部対応する。

**勝部** 「夜間保育」、「保育の質の高さ」への考えは。 **町長** 夜間保育は、未検討。保育の質の高さについては引き続き努力。

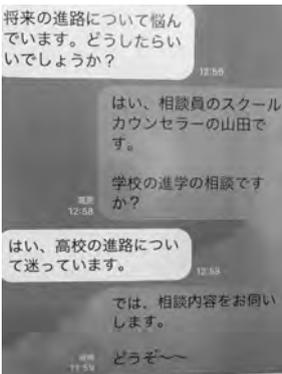
### いじめ相談に「LINE」活用を

**勝部** 本町の「いじめ等」の対応件数は。 **教育次長** 小学校17件、中学校13件の合計30件。

**勝部** 今後、無料通信アプリ「LINE」のQRコードを配布して相談窓口を設置しないか。 **教育長** 国のSNS等のモデル事業の検証や、今後、対応していきたい。



11月5日 ふたば保育所 仲良しなべ



進路相談などに「LINE」の活用を！（例示）

「夜間保育」や「質の高い保育」への考え方は「夜間保育」実施については、未検討。「保育の質の高さ」は、引き続き努力

いじめ相談などの窓口「LINE」を設置して対応しないか  
教育長 国のSNS等のモデル事業の検証や、県の動向を見極めながら今後対応



## 桶本製作所

# カエル工房 (伯耆町久古)

# 自然史系博物館の展示用模型の制作 匠の技がキラリ!

両生類・爬虫類・キノコ・海の生き物などを  
モチーフにしたグッズを制作販売

製作所オーナー桶本さんにお話を伺いました。

**質問** この地で工房を開設されたのは

**桶本さん** 私は関西(大阪)の出身です。父が鳥取県東伯郡琴浦町出身でもあり2000年に米子市彦名に工房を構え、その後、伯耆町のサン団地へ、そして2010年に久古の素晴らしい自然環境の中で工房を開設し現在に至っています。

**質問** 仕事の内容は

**桶本さん** 自然史系博物館の展示用模型の制作が主な仕事です。京都の工房で特殊技術を習得し今では全国の博物館とのつながりがあります。またこの技術を生かしてリアルなカエルや両生類・爬虫類・キノコ・海の生き



カエル工房の作業場

物などのフィギュア、レプリカ、ジオラマ、ストラップなどユニークなグッズをバラエティー豊かに販売中です。精巧で本物そっくりな作品をぜひ一度手にとって見て頂ければと思います。



販売用カエルグッズ

**質問** 工房の名前について

**桶本さん** 作品の販売をインターネット等で展開したところ、多数の作品の中でカエルが一番好評だったことから「カエル工房」と名付けました。

**質問** 今後の抱負は

**桶本さん** 今後は工房のスタッフをもう少し増やしたいと思っています。そして今後の課題として後継者をしっかりと育て

ていかなければならないと考えています。

※見れば見るほど本物そっくり!  
ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。  
(編集委員)

伯耆町久古152612  
TEL 0859-6815655

### お詫びと訂正

第55号(2018年10月25日)15ページ  
勝部 俊徳議員の一般質問  
小見出し下段

- × レスキューサポート
  - レスキューポート
  - × 教育長
  - 町長
- 訂正をして、お詫び申し上げます。

広報委員会

## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。

今年初めての議会だよりをお届けします。

昨年の町議会は、議会の活性化と町民の意見を反映した町政を実現するために、「議会基本条例」「議会議員政治倫理条例」の制定、初の「町民と語る会」の開催と大きな出来事がありました。本年も引き続き、開かれた議会、見える議会づくりのため、広報委員会一同努力してまいります。  
(森下克彦)

### 【編集】

議会広報常任委員会

- 委員長 一橋 信介
- 副委員長 長谷川 満
- 委員 永井 欣也
- 委員 乾 裕
- 委員 杉本 大介
- 委員 森下 克彦

「議会だより」に対するご意見をお待ちしております。

